



カトリック八尾教会ニュース 2024年2月

【今月の予定】

ミサの時間

Tháng hai

2日(金・祝) 主の奉献	-----
3日(土・記) 福者ユスト高山右近殉教者	-----
4日(日) 年間第5主日	7:00 10:00
5日(月) 日本26聖人殉教者	-----
11日(日) 年間第6主日	7:00 10:00
14日(水) 灰の水曜日(四旬節)	19:30
17日(土) 初聖体勉強会	14:00 16:00
18日(日) 年間第7主日	7:00 10:00
ベトナム語ミサ	-----
25日(日) 四旬節第1主日	7:00 10:00

「列聖祈願の集い」 14:00～17:00
 ↳カテドラル聖マリア大聖堂
 「小教区評議会」



「新教会建設献金の日」
 『灰の式』(大斎・小斎)
 「四旬節愛の献金」(四旬節中)
 ↳キャンペーン小冊子や献金袋の配布
 がありますので、ご利用ください。
 「病者のための祈りの集い」
 <今月はお休みです>
 「南地区宣教評議会」14時、泉北教会
 「子どもとともにささげるミサ」

【平日のミサ】 木曜日 10:00 : 1日、8日、15日、29日 (22日はお休み)

■古い枝を回収しています！

玄関ホールに箱を設置しますので、2/11(日)までに古い枝をお持ちください。



(典礼委員会)

■能登地震災害 緊急支援募金の報告

1/7と1/14の2回の募金(64,011円)を下記のカリタスジャパンへ送金しました。
 引き続き、募金を行いますので、ご協力をお願いします。
 下記の通り、個々での受付も行われています。

カリタスジャパン(被災者救援募金)

郵便振替: 00170-5-95979 加入者名: 宗 教 法 人 カ ト リ ッ ク 中 央 協 議 会 カリタスジャパン

*記入欄に「能登地震」と明記してください。「ゆうちょダイレクト」インターネットサービス、
 他行からお振込みいただく場合は、こちらのページの「募金の方法」をご覧ください。なお、「ゆうちょダイレクト」ならびに他行からお振込みいただく場合は、ご依頼人番号、お名前の後に「6258」
 (能登地震災害緊急支援募金の意向番号)を記入いただきますようお願い致します。*お寄せい

ただいた募金は、被災地での支援活動ならびに広く被災された方々への支援関連活動のために活用させていただきます。なお、万一活動終了時に残金が発生した場合は、今後起こりうる国内災害の緊急対応のために使用させていただく場合がございます。(カトリック中央協議会H.Pより)

災害被災者のための祈り

父である神よ、

すべての人に限りないいつくしみを注いでくださるあなたに、

希望と信頼をこめて祈ります。

災害によって、苦しい生活を送り、

不安な日々を過ごす人々の心を照らし、

希望を失うことがないように支えてください。

また、亡くなられた人々には、永遠の安らぎをお与えください。

すべての人の苦しみを担われたキリストが

いつもともにいてくださることを、

祈りと行動によってあかしできますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

(2021年2月16日 日本カトリック司教協議会認可)

*「からし種」(テーマ)「四旬節」と「大齋と小齋」

復活祭は、キリストの復活を記念する、キリスト教の最も重要な祭日です。復活祭前の準備期間を「四旬節」と呼びます。古くから、復活祭に洗礼を受ける志願者の直前の準備期間と考えられてきました。また、すでに洗礼を受けた信者も、この期間をとうして節制と回心につとめ、自分の生活をふり返ります。四旬節は「40日の期間」という意味です。40という数は、イエスが荒野で40日間断食をしたことに由来し、それにならって40日の断食という習慣が生まれました。・・・断食については現在では完全に食事を断つというよりも、十分な食事をひかえることと考えられています。

「大齋と小齋」を守る日は灰の水曜日と聖金曜日(復活祭直前の金曜日)、「小齋」を守る日は祭日を除く毎金曜日です。

- ・「大齋」・・・一日に一回だけの十分な食事とそのほかに朝ともう一回わずかな食事をとることができ、満18歳以上満60歳未満の信者が守ります。
- ・「小齋」・・・肉類を食べないことですが、各自の判断で償いの他の形式、とくに愛徳のわざ、信心業、節制のわざの実行をもって代えることができ、満14歳以上の信者が守ります。(大齋も小齋も、病気や妊娠などの理由がある人は免除されます。)

(中央協議会H.Pより)

■^{せかいびょうしゃ ひ}世界病者の日（2月11日）

「^{せかいびょうしゃ ひ}世界病者の日」は、^{せい}聖ヨハネ・パウロ二世によって1993年から始まりました。この日は「^{せいぼ きねんび}ルルドの聖母の記念日」にあたります。毎年「^{せかいびょうしゃ ひ}世界病者の日」には、^{きょうこう}教皇メッセージが発表されます。病者がふさわしい^{えんじょ う}援助を受けられるように、また苦しんでいる人が自らの苦しみの^{い み う と}意味を受け止めていくための必要な^{ひつよう えんじょ え}援助を得られるように、カトリックの^{いりょうかんけいしゃ}医療関係者だけでなく、^{ひろ}広く^{しゃかいいっばん うった}社会一般に訴えていかなければなりません。

^{せいぼ きねんび}ルルドの聖母の記念日

1858年2月11日、フランスのルルド^{きんこう}近郊のマッサビエールの^{どうくつ}洞窟で、^{むげんざい}無原罪の^{せいぼ}聖母がベルナデッタに初めて^{はじ}現れた。ベルナデッタへの一連の^{いちれん}マリア出現は、^{しゅつげん}教会当局によって^{きょうかいとうきやく}神聖なものとして^{しんせい}承認され、^{しょうにん}ルルドが^{こくさいてき}国際的な^{じゅんれいち}巡礼地になった。（写真は、^{しゃしん}いまなお^{ふはい}腐敗せずに^{のこ}残る^{せい}聖ベルナデッタの^{いがい}遺骸）



（カトリック中央協議会H.Pより）

➡^{びょうしゃほうもんかつどう}病者訪問活動

^{とうきょうかい きょうかい}当教会も^こ教会に^{びょうしゃ}来られない^{かた}病者の方へ^{ほうもんかつどう}訪問活動を行っています。

^{しせつ}施設や^{じたく}ご自宅など^{いらい}ご依頼に応じて^{ほうもん}訪問をしています。訪問を希望される方がおられましたら、^{ほうもん}司祭又は^{ほうもん}訪問チームスタッフまで^{れんらく}ご連絡ください。また、^{ほうもんかつどうほうししゃ}訪問活動奉仕者も^{ぼしゅう}募集しています。
（^{びょうしゃほうもん}病者訪問スタッフ）

『^{ねんかんりゅうがく}イタリアのローマで4年間留学していたが、、、』

^{チェ}崔 ^{ジュヨン}周永神父

ローマで^{ねんかん}4年間の^{りゅうがく}留学の時、^{とき}授業の^{じゅぎょう}終わりに^{おむ}は概ね^{しゅくだい}宿題が^だ出されるわけで、^し締め切りは^きいつもでか^{いっしょけんめい}と一所懸命^た耳を立てていた。外国語を学ぶ場合、^{がいこくご}数字や^{まな}時間の^{ばあい}数え方は^{すうじ}基本的に^{じかん}習得して^{かぞ}おかないと^{かた}大変^{きほんてき}困る。ラテン系の^{しゅうとく}言葉である^{かた}イタリア語は、^{かた}日本語や^{かた}韓国語の^{かた}語順と^{かた}真逆のもの^{かた}で、^{かた}名詞を^{かた}修飾する^{かた}形容詞も^{かた}そうだった。例えば、^{かた}先生には、^{かた}優しい先生、^{かた}厳しい先生などの^{かた}ように、^{かた}形容詞が^{かた}先生という^{かた}名詞の前^{かた}に来る。しかし、^{かた}イタリア語では、^{かた}insegnante simpatico, ^{かた}insegnante rigido と^{かた}書く（これは^{かた}先生が^{かた}男性の場合で、^{かた}女性の先生は、^{かた}女性形、つまり、^{かた}simpatica, ^{かた}ridgida）。^{かた}こういった^{かた}構造の^{かた}違いにより、^{かた}韓国語を^{かた}母語とする^{かた}私にとって、^{かた}イタリア語の本を読む時に、^{かた}よっぽど^{かた}意識しない^{かた}限り、^{かた}insegnante の^{かた}後ろに^{かた}続く^{かた}形容詞を^{かた}一つの^{かた}意味の^{かた}群れと^{かた}瞬時に^{かた}認識することが^{かた}かなり^{かた}難しい。これは^{かた}ただの^{かた}順番の問題だけでなく、^{かた}思考作用にも^{かた}影響を与える。文章って、^{かた}ぶっちゃけた^{かた}言い方をすると、^{かた}主語と^{かた}述語で^{かた}成っている^{かた}ようなものだ。例えば、^{かた}腹減ったという^{かた}と、（わたしは）^{かた}腹が^{かた}減っている^{かた}との^{かた}意味で、^{かた}主語の^{かた}私を^{かた}腹が^{かた}減った^{かた}との^{かた}述語が^{かた}説明している^{かた}構造なのだ。ちょっと^{かた}待って、^{かた}も^{かた}同じだ。（あなたは）^{かた}ちょっと^{かた}待って、^{かた}という^{かた}意味の^{かた}ことは^{かた}言う^{かた}までもない。宿題は^{かた}いつまで^{かた}だと^{かた}仰る^{かた}日本人^{かた}先生のお話^{かた}に^{かた}何の^{かた}問題も^{かた}なく、^{かた}日本語の^{かた}わかる^{かた}学生^{かた}達は（やるか^{かた}やらないか^{かた}に^{かた}関係なく）^{かた}うなずく。しかし、^{かた}ローマの

講義室で I compiti si devono essere inviati fino alla mattina del martedì quattro di Febbraio ! を聞いて
直ぐわかるにはかなりの時間が必要だった。直訳で、宿題ら(複数)は、送られるべきである、
朝まで、(の) 火曜日、4日2月! 結局、言葉って慣れであって、時間が経ち、聞いたり
書いたり、それに話したりしているうちに徐々に掴んでいく。といっても、変わらないものがある。
それは、母語の影響というものだ。頭の中で日本語を完全に横において、イタリア語だけで
考えたり話したりしていたとしても、その根底には母語が一瞬たりとも止まることなく働いている。
母語は、私たちが普通に喋っている単なる言葉なんかではなく、私たちの存在そのものなのだ。
その母語でもって考え、判断し、コミュニケーションを取り合っていく。新しい外国語を
学び、一所懸命取得していく場合、到達できるレベルは母語のレベル、そのぴったしの所までと
思う。何故なら、人間は分からないものを望める且つ目指せるのは不可能で、外国語という未知
のものが分かる為の道標は自分の母語にしかないためである。

以上が、母語の子供である皆さんに当てはまる話であるが、信仰の世界はこれとは違う。そも
そも、神様という存在は人間の理解の彼方にあり、人間の不完全な知力の上、不完全な人間の
言葉で神様の存在を掴んでいくのも言語道断のことなのだ。しかし、イエス様が人間となり、
私たちと共におられることで問題はすべて解決されたと言いたいが、そうでもない。信仰はいつ
も私たちに問いかけているのだ。あなたはどれほど真剣に取り組んでいる、神様と?

おめでとうございます。成人された皆様へ。

これから多くの問題と真剣に取り組んでいきますように!

